

## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月2日

東

上場会社名 アストマックス株式会社 上場取引所  
 コード番号 7162 URL <https://www.astmax.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 本多弘明  
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 (氏名) 西潟しのぶ (TEL) 03-5447-8400  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有 当社ウェブサイトに掲載します。  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益			
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%		
2025年3月期第3四半期	15,672	4.1	△526	—	△606	—	△512	—		
(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期	△516百万円( -%)		2025年3月期第3四半期		354百万円( 75.9%)					
	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益							
2026年3月期第3四半期	円 銭		円 銭							
2025年3月期第3四半期	△39.57		—							

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円	百万円	%
2025年3月期	17,364	5,466	29.4
(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期	5,100百万円	2025年3月期 5,042百万円	

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2026年3月期の配当予想に関しましては未定とさせていただいておりますが、当社の配当性向は30%以上（但し電力ヘッジ取引等による影響額を考慮する）とし、「中期ビジョン2028」期間中、2028年3月期までは1株当たり7円の配当を下限とする期末配当年1回を基本方針としております。

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

当社グループの事業の1つ、電力取引関連事業にて行っている電力取引について、電力先渡取引は時価評価の対象ではありませんが、そのヘッジ目的で行う電力先物取引は時価評価の対象であり、損益の認識タイミングが異なることから、業績予想が困難であります。四半期毎に作成している「決算補足説明資料」にて損益の認識タイミングを揃えた場合について補足説明しております。また、その他参考情報として再生可能エネルギー関連事業の保有発電所の発電状況を月次で開示しております。詳細は当社ウェブサイトをご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 -社 (社名) 、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	13,160,300株	2025年3月期	13,160,300株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	14,329株	2025年3月期	760,148株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	12,943,291株	2025年3月期 3Q	12,380,119株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無

監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、（添付資料）2ページ「1. 経営成績等の概況」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	10
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等の注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 経営成績に関する説明

## (連結経営成績)

(単位：百万円)	2025年3月期 第3四半期 連結累計期間	2026年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)	増減の主要因ほか
営業収益	15,056	15,672	616	4.1	①電力取引関連事業 (+2,212) ※2 ②再生可能エネルギー関連事業 (+60) ③小売事業 (△1,006) ④ディーリング事業 (△510)
営業費用	14,698	16,199	1,500	10.2	電力仕入の増加 (+1,525)
営業利益又は営業損失 (△)	357	△526	△884	—	
経常利益又は経常損失 (△)	398	△606	△1,004	—	①前年同期間は投資有価証券売却益を計上 (△151) ②違約金収入 (+14)
特別利益	21	146	125	590.0	①前年同期間は訴訟損失引当金戻入額 (△21) を計上 ②投資有価証券売却益 (+146)
特別損失	—	49	49	—	貸倒引当金繰入額 (+38)
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	419	△509	△929	—	
法人税等合計 (※1)	65	6	△58	△89.5	
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	4	△4	△8	—	
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	349	△512	△861	—	

※1 「法人税等合計」には、「法人税、住民税及び事業税」と「法人税等調整額」を含みます。

※2 当第3四半期連結累計期間の営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による営業収益等への一時的影响の内容については、「セグメント毎の経営成績及び取り組み状況<2 電力取引関連事業>」をご参照ください。

当社グループは、金融及び市場取引分野において創業以来培ってきたノウハウを活用し、総合エネルギー事業をコアとした事業展開をしております。

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）における我が国の経済状況は、所得・雇用環境の改善などにより緩やかな回復基調が継続しております。一方、物価上昇の長期化に加え、米国の保護主義的な貿易政策、高市新政権発足に伴う政策運営の不透明感、日中間の緊張の高まり等が、企業活動や市場心理に影響を与えており、先行きには引き続き十分な注視が必要な状況です。

このような中、当社グループは、2026年3月期から2028年3月期の3年を対象期間とする「中期ビジョン2028」を策定し、発電事業者、小売電気事業者、電力需要家のあらゆるニーズに応える、「エネルギートータルソリューションプロバイダー」を目指しております。財務面においては、資本コストや株価を意識した経営への取り組みとしてROIC管理を行い、事業ポートフォリオの見直しの実施や、株主資本コストの低下、IR活動の強化を通じてPBR1倍超を目指しております。

当第3四半期連結累計期間における経営成績は以下のとおりです。

営業収益は、電力取引関連事業における増収を背景に前年同期間比4.1%増加の増収となりました。一方、損益はディーリング事業においては事業撤退に向けた事業規模縮小と裁定取引の取引対象商品の大幅な価格変動等によるネガティブな影響が大きく、また他の事業も小売事業を除き赤字計上となり、全体として営業損失、経常損失が拡大しました。さらに、資本効率の向上と財務体質の強化を図るため、非上場有価証券を2025年7月に売却し、投資有価証券売却益として146百万円を特別利益として計上したものの、2025年10月に電力取引関連事業の取引先が民事再生手続きに移行したことにより売掛債権等38百万円を貸倒引当金繰入額として特別損失を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純損失は512百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における主なトピックスは以下のとおりです。

- ・ヒューリックプロパティソリューション株式会社との資本業務提携（2025年5月）
- ・電力仕入れにかかる資金のためのコミットメントライン契約を締結（2025年9月）
- ・東京証券取引所スタンダード市場における所属業種が「電気・ガス業」に変更（2025年10月）
- ・系統用蓄電所（北海道札幌市）完工、運用開始（2025年11月）
- ・株式会社竹中工務店を引受人としたアストマックスえびの地熱株式会社の第三者割当増資を実施（2025年11月）

セグメント毎の経営成績及び取り組み状況は次のとおりです。

(セグメント別営業収益・セグメント損益)

(単位：百万円)	営業収益			セグメント損益		
	2025年3月期 第3四半期 連結累計期間	2026年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減	2025年3月期 第3四半期 連結累計期間	2026年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減
再生可能エネルギー関連事業	559	621	62	133	△29	△162
電力取引関連事業（※1）	9,064	11,279	2,214	150	△122	△272
小売事業	5,154	4,148	△1,006	116	53	△63
ディーリング事業	325	△185	△510	82	△407	△490
アセット・マネジメント事業（※2）	146	—	△146	27	—	△27
調整額	△194	△192	2	△111	△99	11
四半期連結財務諸表計上額	15,056	15,672	616	398	△606	△1,004

※1 当第3四半期連結累計期間の営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による営業収益等への一時的な影響の内容については、「セグメント毎の経営成績及び取り組み状況＜2 電力取引関連事業＞」をご参照ください。

※2 アセット・マネジメント事業は2025年3月31日をもって廃止いたしました。

※3 セグメント損益は、当第3四半期連結累計期間の経常損益と調整を行っており、セグメント間の内部取引消去等の調整額が含まれております。各事業に帰属する特別利益及び特別損失は含んでおりません。

<1 再生可能エネルギー関連事業>

営業収益：621百万円（前年同期間比62百万円（11.2%）の増加）

セグメント損益：29百万円のセグメント損失（前年同期間は133百万円のセグメント利益）

太陽光発電所全体の売電収入は前年同期間比増加したものの、保険料の増額、系統用蓄電池事業における新規案件に向けた営業費用の先行発生、並びに地熱事業における継続的な費用先行により、セグメント損失となりました。前年同期間との差異が大きい理由は、前年は当社で手掛けている系統用蓄電池案件のうち1件をエリア分散の観点から2024年12月に他社に譲渡し151百万円の営業外収益（投資有価証券売却益）を計上していたためです。

- ・CO<sub>2</sub>削減目標：2030年までに最大年間66,000トン（太陽光100MW相当）
- ・太陽光：発電事業13.1MW、維持・運営管理（O&M事業）31.6MW、コーポレートPPA 計8か所
- ・系統用蓄電所：開発・維持管理：北海道札幌市で系統用蓄電所完工、運転開始（2025年11月）
- ・地熱：宮崎県えびの市で4.4MW計画、株式会社竹中工務店による当社子会社の増資引受（2025年11月）

当第3四半期連結累計期間の主な動きは以下のとおりです。

(太陽光発電事業)

当社は既存太陽光発電事業において安定的な売電収入の確保を継続するとともに、リパワリングやFIP制度への移行も含めた採算性向上の検討を進めております。2025年12月に低圧の太陽光発電所2件を取得し、当社グループが保有する太陽光発電所の発電量は0.1MW増加し13.1MWとなりました。

(系統用蓄電池事業)

当社は大和エナジー・インフラ株式会社、芙蓉総合リース株式会社が主体となり共同で匿名組合出資する合同会社DAXより、北海道札幌市内にて系統用蓄電池（定格出力50MW、定格容量100MWh）事業のオペレーターとして、蓄電所の運営、維持・管理、AIを活用した需給調整や市場予測等の機能を活用した電力取引の業務を受託しております。当該系統用蓄電所は2025年度に完工し、2025年11月1日付で運転を開始いたしました。

引き続き他のエリアでの展開も検討を進めており、幾つかの案件について具体的な事業化に向けて取り組みを進めています。うち1件は当連結会計年度末までに事業体制の構築が確立する見込みです。

(地熱発電事業)

当社グループは2015年より宮崎県えびの市で地熱発電開発に着手し、掘削した4本の井戸で発電事業に必要な能力を確認しました。一方、送配電事業者との連系は制度改正の影響で長期化し、全4.4MWの契約は2024年度に完了しました。その間、許認可や工事契約等の準備を進めつつ、円安・物価高による建設費高騰を踏まえた体制の再検討を行い、2025年11月に事業基盤強化と採算性向上を目的に、株式会社竹中工務店を引受人とするアストマックスえびの地熱株式会社の第三者割当増資を実施いたしました。

現在は、今後の資本増強や資金調達等を含めた事業計画の見直しに着手しております。

なお、本増資に伴い、匿名組合出資予定者である大和エナジー・インフラ株式会社との匿名組合契約等は解除いたしました。

## <2 電力取引関連事業>

営業収益：11,279百万円（前年同期間比2,214百万円（24.4%）の増加）

セグメント損益：122百万円のセグメント損失（前年同期間は150百万円のセグメント利益）

ヘッジ目的で行う電力先物取引による一時的な影響を考慮した実質ベースでは、営業収益及びセグメント損益はそれぞれ上記数字から102百万円上方修正され、セグメント損失は20百万円となります。詳細は後段（ヘッジ目的で行う電力先物取引による営業収益等への一時的な影響）および当社ホームページに掲載する決算短信の補足説明資料にて補足説明しておりますので、ご参照ください。

電力取引の受注は堅調に推移し、電力取引量が大幅に増加したことを背景に営業収益は大きく増加しましたが、系統用蓄電所運用開始に伴う先行費用の発生に加え、2025年12月に発生した青森県東方沖の地震の影響を受け損失が発生したこと等により、セグメント損失となりました。

- ・電力卸売取引：小売電気事業者向け電力取引および電力小売顧客向け固定価格取引等による電力の提供
- ・業務代行サービス：AIを活用した需給管理ほか
- ・系統用蓄電所運用：アグリゲーターとして2025年11月より運用開始。アグリゲーター業務の拡大を図る

当第3四半期連結累計期間の主な動きは以下のとおりです。

### （系統用蓄電所運用）

系統用蓄電所の運用に必要となるAIアルゴリズムの開発とシステム構築を行い、AIを活用した市場予測を基に、卸電力市場、需給調整市場、容量市場での取引を行います。2025年11月より北海道にて実運用を開始いたしました。

### （ヘッジ目的で行う電力先物取引による営業収益等への一時的な影響）

電力取引関連事業においては、電力現物先渡取引の価格変動リスクをヘッジする目的で電力先物取引を利用しております。ただし、電力現物先渡取引は受渡が完了した時点で損益を計上する一方、電力先物取引はデリバティブ取引として時価評価を行い損益を計上しているため、電力現物先渡取引に係る損益と電力先物取引に係る損益の計上時期が相違しております。

当第3四半期連結累計期間における、電力現物先渡取引が当第3四半期連結累計期間の受渡にもかかわらず前連結会計年度に計上された電力先物取引に係る損益と、電力現物先渡取引が当第3四半期連結累計期間末を越えて受渡が行われるにもかかわらず当第3四半期連結累計期間に計上された電力先物取引の損益は差し引き△102百万円であり、当第3四半期連結累計期間の損益を実質的に押し下げる要因になっております。

なお、前年同期間の当該損益は37百万円であり、前年同期間の損益を実質的に押し上げる要因になっておりました。

## &lt;3 小売事業&gt;

営業収益：4,148百万円（前年同期間比1,006百万円（19.5%）の減少）

セグメント損益：53百万円のセグメント利益（前年同期間比63百万円（54.3%）の減少）

当第3四半期連結累計期間においては、容量拠出金の単価が前年同期間比大幅に減少していることの影響、大口顧客との新規契約締結の遅延に加え、減少に歯止めがかかりつつあるものの顧客減に伴う電力供給量減少と価格競争激化によるマージンの減少等により、営業収益及び営業費用は共に前年同期間比減少しました。

・特別高圧・高圧：請求単位の顧客数503件（前年末比△45件）、コミットメントライン40億円契約

・低圧 : 空室通電サービス開始、顧客数は緩やかな増加傾向

当第3四半期連結累計期間の主な動きは以下のとおりです。

## (電力小売事業)

特別高圧・高圧の電力市場では営業を強化し、個別対応や提案を通じて新規顧客の獲得を進めているものの、2025年12月末の特別高圧・高圧の顧客数（請求単位）は前連結会計年度末比45件減少の503件となりました。

電力仕入に係る資金を安定的かつ機動的に調達することを目的にコミットメントライン契約を締結しておりますが、今回は主要行4行を含む6金融機関との間でコミットメント金額を10億円増額した総枠40億円の契約を2025年9月に締結し、36百万円の資金調達費用を一時費用として計上いたしました。これは、足元では電力供給量が前年同期間比減少しているものの、今後の大口契約を見据えた増枠となります。

低圧市場については、販売代理店拡充の一環として、2025年5月より不動産賃貸管理会社向けに空室通電サービスを開始し、顧客数は徐々に増加しております。

## (ガス小売事業)

アストマックス・エネルギー株式会社は株式会社グローバルエンジニアリングのガス小売取次店として電気とガスのセット販売を継続しておりますが、取次元事業者の切り替えに伴い、ガスの取次事業は2026年3月末をもって終了することといたしました。

## &lt;4 ディーリング事業&gt;

営業収益：△185百万円（前年同期間の営業収益は325百万円）

セグメント損益：407百万円のセグメント損失（前年同期間は82百万円のセグメント利益）

前連結会計年度末に生じていた裁定取引対象商品における市場の歪みが当第3四半期連結累計期間末時点において大きく拡大したことにより評価損失が大幅に増加し、営業収益はマイナスとなり、大幅なセグメント損失となりました。

当事業では、国内外の主要取引所において商品先物を中心に、株価指数等の金融先物を取引対象とした自己勘定による裁定取引を行っておりますが、2025年5月に開示のとおり、事業間のシナジーや投下資本の効率等を改めて検討した結果、2年を目途にディーリング事業の規模を段階的に縮小し、トレーディング及びリスク管理ノウハウを電力取引関連事業に移行した上で最終的に廃止することといたしました。

上記、セグメント損益は当第3四半期連結累計期間の経常損益と調整を行っており、セグメント間の内部取引消去等の調整額が含まれております。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて31.2%増加し、11,312百万円となりました。これは、差入保証金が2,310百万円増加し、現金及び預金が441百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて4.5%減少し、6,051百万円となりました。これは、機械及び装置の純額が172百万円減少し、投資有価証券が83百万円減少したこと等によります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて16.1%増加し、17,364百万円となりました。

### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて39.0%増加し、7,901百万円となりました。これは、自己先物取引差金が2,585百万円増加し、1年内償還予定の社債が690百万円増加し、短期社債が700百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて5.6%減少し、3,996百万円となりました。これは、主に長期借入金が218百万円減少したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて19.9%増加し、11,898百万円となりました。

### (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて8.4%増加し、5,466百万円となりました。これは、連結子会社であるアストマックスえびの地熱株式会社が第三者割当増資を実施したため、資本剰余金が459百万円増加し、非支配株主持分が366百万円増加したこと等によるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの事業は、業績が経済情勢や市場環境によって大きな影響を受けるため、業績予想が困難であります。会社業績については四半期毎の決算開示に集約させていただき、その他参考情報として再生可能エネルギー関連事業の保有発電所の発電状況を月次で開示しております。詳細は当社ウェブサイトをご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	2,747,397	3,189,268
営業未収入金	1,597,741	1,468,625
商品及び製品	14,085	14,085
リース債権及びリース投資資産	270,693	249,476
差入保証金	3,704,745	6,014,854
自己先物取引差金	93,422	248,167
その他	210,462	144,337
貸倒引当金	△14,037	△16,191
流动資産合計	8,624,511	11,312,623
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	534,579	535,349
減価償却累計額	△337,722	△362,617
建物及び構築物（純額）	196,857	172,731
機械及び装置	4,427,667	4,451,031
減価償却累計額	△2,019,365	△2,215,271
機械及び装置（純額）	2,408,302	2,235,759
車両運搬具	1,840	1,840
減価償却累計額	△1,559	△1,619
車両運搬具（純額）	280	220
器具及び備品	47,513	47,513
減価償却累計額	△39,512	△41,660
器具及び備品（純額）	8,000	5,852
土地	492,744	493,134
建設仮勘定	2,653,325	2,656,049
有形固定資産合計	5,759,510	5,563,748
無形固定資産		
その他	38,466	28,555
無形固定資産合計	38,466	28,555
投資その他の資産		
投資有価証券	447,223	363,327
出資金	40,277	41,925
長期差入保証金	33,021	32,061
その他	16,530	59,491
貸倒引当金	-	△38,018
投資その他の資産合計	537,053	458,787
固定資産合計	6,335,030	6,051,091
繰延資産		
開業費	20	14
社債発行費	1,991	1,183
繰延資産合計	2,011	1,198
資産合計	14,961,553	17,364,914

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
営業未払金	813, 657	716, 965
短期借入金	908, 650	498, 438
短期社債	700, 000	–
1年内返済予定の長期借入金	394, 110	377, 444
1年内償還予定の社債	30, 000	720, 000
1年内返還予定の預り保証金	673, 907	800, 738
自己先物取引差金	1, 508, 615	4, 094, 327
リース債務	5, 300	5, 300
未払金	210, 881	83, 977
未払費用	27, 499	27, 895
未払法人税等	13, 395	14, 860
賞与引当金	29, 989	15, 722
インセンティブ給引当金	15, 719	10, 656
その他	354, 907	535, 324
<b>流動負債合計</b>	<b>5, 686, 634</b>	<b>7, 901, 650</b>
<b>固定負債</b>		
社債	40, 000	20, 000
長期借入金	2, 178, 812	1, 960, 504
リース債務	12, 808	8, 833
繰延税金負債	19, 021	23, 460
修繕引当金	112, 746	122, 012
製品保証引当金	1, 851	1, 851
資産除去債務	260, 473	262, 412
長期預り金	1, 497, 972	1, 497, 972
その他	109, 138	99, 453
<b>固定負債合計</b>	<b>4, 232, 826</b>	<b>3, 996, 500</b>
<b>負債合計</b>	<b>9, 919, 460</b>	<b>11, 898, 151</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2, 013, 545	2, 013, 545
資本剰余金	2, 742, 305	3, 201, 733
利益剰余金	487, 698	△111, 257
自己株式	△201, 812	△3, 704
<b>株主資本合計</b>	<b>5, 041, 737</b>	<b>5, 100, 316</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	355	355
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>355</b>	<b>355</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>–</b>	<b>366, 090</b>
<b>純資産合計</b>	<b>5, 042, 093</b>	<b>5, 466, 762</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>14, 961, 553</b>	<b>17, 364, 914</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

	(単位:千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
<b>営業収益</b>		
再生可能エネルギー関連事業収益	501,123	561,156
電力取引関連事業収益	8,930,430	11,142,590
小売事業収益	5,152,869	4,146,310
アセット・マネジメント事業収益	146,043	-
ディーリング事業収益	325,646	△185,088
その他の営業収益	-	7,363
営業収益合計	15,056,113	15,672,331
<b>営業費用</b>		
営業利益又は営業損失 (△)	14,698,580	16,199,070
<b>営業外収益</b>		
受取配当金	2,200	10,750
持分法による投資利益	353	2,394
受取手数料	500	-
受取保険金	48	58
補助金収入	201	-
違約金収入	-	14,892
投資有価証券売却益	151,255	-
その他	582	4,166
営業外収益合計	155,140	32,261
<b>営業外費用</b>		
支払利息	62,337	59,274
支払保証料	17,325	7,327
資金調達費用	28,423	37,500
その他	5,832	7,464
営業外費用合計	113,919	111,566
経常利益又は経常損失 (△)	398,754	△606,043
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	-	146,210
訴訟損失引当金戻入額	21,190	-
特別利益合計	21,190	146,210
<b>特別損失</b>		
貸倒引当金繰入額	-	38,018
和解金	-	11,579
特別損失合計	-	49,598
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	419,944	△509,431
法人税、住民税及び事業税	62,780	2,433
法人税等調整額	2,693	4,438
法人税等合計	65,473	6,872
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	354,471	△516,303
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	4,764	△4,148
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	349,706	△512,155

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	354,471	△516,303
四半期包括利益	354,471	△516,303
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	349,706	△512,155
非支配株主に係る四半期包括利益	4,764	△4,148

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

当第3四半期連結会計期間において、連結子会社であるアストマックスえびの地熱株式会社が第三者割当増資を実施したこと等により、資本剰余金が459,427千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が3,201,733千円となっております。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					
	再生可能エネルギー関連事業	電力取引関連事業	小売事業	アセット・マネジメント事業	ディーリング事業	合計
営業収益 外部顧客への 営業収益 セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	501,123 58,107	8,930,430 134,141	5,152,869 2,053	146,043 —	325,646 —	15,056,113 194,303
計	559,231	9,064,572	5,154,923	146,043	325,646	15,250,416
セグメント利益	133,134	150,003	116,479	27,376	82,855	509,850

	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
営業収益 外部顧客への 営業収益 セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	— △194,303	15,056,113 —
計	△194,303	15,056,113
セグメント利益	△111,095	398,754

(注) 1 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 セグメント利益の調整額△111,095千円には、セグメント間取引消去8,100千円、全社収益2,991千円及び全社費用△122,187千円が含まれております。全社収益及び全社費用は、各報告セグメントに帰属しない親会社の収益及び費用であり、各報告セグメントに配分していない金額であります。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な減損損失を認識していないため、また、のれん等の金額に重要な影響を及ぼす事象が生じていないため、記載しておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	再生可能エネルギー関連事業	電力取引関連事業	小売事業	ディーリング事業	合計
営業収益 外部顧客への 営業収益 セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	561,156 60,716	11,142,590 136,824	4,146,310 1,964	△185,088 —	15,664,968 199,505
計	621,873	11,279,414	4,148,274	△185,088	15,864,473
セグメント利益 又は損失(△)	△29,277	△122,968	53,284	△407,906	△506,866

	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
営業収益 外部顧客への 営業収益 セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	7,363 △199,505	15,672,331 —
計	△192,141	15,672,331
セグメント利益 又は損失(△)	△99,176	△606,043

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

- 2 外部顧客への営業収益の調整額7,363千円は、各報告セグメントに帰属しない親会社の収益であり、各報告セグメントに配分していない金額であります。
- 3 セグメント利益の調整額△99,176千円には、セグメント間取引消去8,100千円、全社収益19,740千円及び全社費用△127,017千円が含まれております。全社収益及び全社費用は、各報告セグメントに帰属しない親会社の収益及び費用であり、各報告セグメントに配分していない金額であります。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な減損損失を認識していないため、また、のれん等の金額に重要な影響を及ぼす事象が生じていないため、記載しておりません。

## 3 報告セグメントの変更に関する事項

前連結会計年度末において、アセット・マネジメント事業を担っておりましたAFM株式会社（旧：アストマックス・ファンド・マネジメント株式会社）を連結の範囲から除外したため、当連結会計年度より「アセット・マネジメント事業」の区分を廃止しております。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る営業費用の減価償却費は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	234,526千円